

## 肝に銘ずる

第四十六話 平成三十年七月五日

ゲルマン人とケルト人の混血。オランダ人、フランス人、ドイツ人の混血。このベルギー人の肝の大きさに、肝を冷した日本代表選手たち。ベスト 8 を信じた日本国民は、後半戦で肝を潰される。

肝を嘗めさせられた協会は、肝を焼いた末、ふたたび外人監督。

ふたたび外人監督に肝を煎いれされる羽目になるのか、どうかはわからぬが、今大会の収穫は、中学生の体格でも高校生と勝負できることを日本のサッカー少年たちが肝に銘じたことだ。

中学生が高校生に勝つためには、どうすればよいか、日本のサッカー少年たちが肝を砕くなら、いつかW杯を手中にする日が来る。